



青少年赤十字だより 第29号

JRCとやま

2019年、ラグビーワールドカップが日本で行われ、日本代表の快進撃に日本中が熱狂しました。スタジアムに詰めかけた170万人を超えるファンが、声援を送りました。これよりもはるかに多くの日本人が、テレビ中継に釘付けでした。私も「にわかファン」の一人として、数々のトライに心を躍らしました。

この日本代表チームには、ニュージーランド出身のリーチ・マイケル主将をはじめ、国籍を問わず、必要な選手が招集されました。その結果、総勢31人のうち、およそ半数の15人が外国人という多国籍チームとなりました。

生まれた国も育った文化も違う選手たちをひとつにまとめるため、ジェイミー・ジョセフヘッドコーチが掲げたスローガンが「ワンチーム」です。



富山県青少年赤十字指導者協議会

会長 山崎 司

(射水市立東明小学校校長)

「ワンチーム」に未来を託す

「自分ができることを探し、互いが依存し合いながらもそれぞれが自立して動く」そんな思いが込められています。青少年赤十字の活動には、「これをしてしなければならぬ」といったものはありません。地域や世界の人々の平和や福祉に貢献すると考える活動を学校の裁量で自由に行っています。また、「気づき」「考え」「実行する」という態度目標を掲げ、児童生徒の主体性を育んでいます。「ワンチーム」の精神に通ずるものがあります。

「ワンチーム」という言葉は、南アフリカチームのスローガンに端を発します。1995年、アパルトヘイト撤廃後、自国開催となったワールドカップで、南アフリカチームが、初出場、初優勝を飾り、「ワンチーム ワンカントリー」のスローガンが、世界中で

脚光を浴びました。その後、南アフリカの政治が変わり、国が変わりました。それまでは考えられなかった白人と黒人の人種融和の日が訪れたのです。

青少年赤十字は、特定の宗教やイデオロギーに左右されません。宗教や思想の違いを超えて人間同士が互いの違いを理解し合い、認め合いながら互いを助け合う発想に支えられています。そして、児童生徒が、日常生活を通して命と健康を大切に、世界の人々との友好親善の精神を育成することを目的として学校教育の中で実践しています。やはり「ワンチーム」の精神と重なります。

アイルランド、スコットランドを連破し、ベスト8に進んだ日本代表のように、努力を積み重ねた成果をほつきりと実感することは、今は少ないかもしれませんが、青少年赤十字活動での体験は、確実に児童生徒の力となつていきます。いつの日か、子供たちは、「ワンチーム」となり、目を見張る活躍してくれることを信じています。ワールドカップを制覇し、国を変えた南アフリカ代表にも負けたくらいに。

結びとなりますが、青少年赤十字活動を支援してくださいました関係各位に深く感謝を申し上げますとともに、今後とも、普及・発展にご協力いただきますようお願い申し上げます。

令和2年度JRC活動計画

3月	1月	8月	7月	6月	5月
高校生対象 スタディー・センター(山梨県) 高等学校青少年赤十字活動の中心となるリーダーの養成を図ります。	指導主事対象 青少年赤十字研究会(日赤本社) 青少年赤十字活動研究会(富山市) 教職員を対象に、広く青少年赤十字活動を学び、普及することを目的とした研究会です。	リーダーシップ・トレーニング・センター(砺波市) 県下小・中・高等学校の青少年赤十字メンバーが集まり、共同で生活する体験学習です。チャイムや指示がないため、自分で考えて行動することによって、参加者の自主性を育てます。	全国賛助奉仕団協議会(日赤本社)	全国指導者協議会総会(日赤本社) 第3ブロック指導者協議会長及び支部担当者研究会(富山県)	指導者協議会 理事会・総会(日赤県支部) 令和2・3年度 活動推進校指定

青少年赤十字への加盟について

青少年赤十字は、学校教育の場に組織され、教師が指導者となつて、児童・生徒とともに活動に取り組めます。

青少年赤十字に加盟されると、定期刊行物や資料・教材の無償提供、指導者対象の講習会に関する案内、小・中・高等学校の青少年赤十字メンバー対象のリーダーシップ・トレーニング・センターに関する案内等がありますが、「これをしなければならぬ」といった義務のようなものではありません。地域や世界の人びとの平和や福祉に貢献するような活動を、学校の裁量で自由に行うことができます。なお、加盟登録する上で、経費は一切かかりません。各学校の教育効果を高めるため、ぜひ青少年赤十字をご活用ください。

令和元年度 新規加盟校

魚津市立東部中学校
校長 八倉巻 清彦
全校加盟



発行・編集

富山県青少年赤十字
指導者協議会
日本赤十字社富山県支部

〒930-0821 富山市飯野26-1
TEL076-451-7878 FAX076-451-6872
http://www.toyamajrc.or.jp/

青少年赤十字加盟校状況 (令和2年3月31日現在)

校種	校数	メンバー数
幼稚園・保育園	14園	1,275名
小学校	138校	27,287名
中学校	78校	26,733名
高等学校	13校	1,067名
特別支援学校	5校	228名
計	248校	56,590名

青少年赤十字活動研究会

1月16日(木)、富山県総合教育センターにおいて、「令和元年度青少年赤十字活動研究会」を県教育委員会と共催で開催し、県内の小・中・高等学校等教員55名が参加しました。ここに、当日の講演及び活動発表の概要をお伝えします。

〔第一部・講演〕 「国際理解と防災教育」

「赤十字の挑戦がみんなの未来をつくる」
福島県立白河旭高等学校 教諭 シェルバ 愛子 氏

私は教員になってから今年で23年目になります。2003年に、縁あって当時ネパールの学校で働いていた夫と結婚し、名字を変えました。

ある年に荒れている学校へ転勤となり、JRC委員会とボランティアの担当を任せられました。私が青少年赤十字(以下、JRC)と出会ったのはその時です。任された当初は、できないと思っていましたが、ボランティアをしたいと言ってくれた生徒が増え、JRCと関わった生徒がすごく変わっていく姿を見てJRCにはまり、今に至ります。私がJRC活動を続けているのは、生徒がいきいきと活動している姿を見て、自分も癒やされてしまうからなのかなと思っています。

今日は先生方に体験していただきたいものをいくつか準備しております。肩の力を抜いて、体験していただければと思います。

※クイズの答えは最後にあります。

問1：世界の人口は、約77億人である。
問2：世界の人口は爆発的に増えている。
問3：日本の人口は爆発的に増えている。
問4：世界で生産されている食料は約120億人分である。

問5：世界を発展途上国と先進国に分けた場合、発展途上国に住む人は世界の5分の1である。
問6：日本で1日に捨てられる食料は約30万人分である。
問7：日本で貧困に苦しむ子どもは7人に1人である。

問8：今から紹介する朝昼夕の食事は、どこの国のものか。朝食：白米1杯・浅漬け2皿・焼き芋2本・卵1個。(卵が食べられるのは2ヶ月に1回) 昼食：焼き芋2本・粉ふき芋1皿・サラダ2皿・牛乳1本。(牛乳は4日に1本) 夕食：焼き芋2本・粉ふき芋1皿・野菜炒め2皿・焼き魚1切れ。(肉が食べられるのは18日に1皿)

いろいろなデータを見ていくと、これから日本は、世界はどうなっていくのだろうかと思えます。そして、私たちは日本で生きていくにしても、もっと世界を知らなければいけないのではないかと思います。

「国際社会を体験してみよう」

1つ目の体験です。今から、誰とも話をしないでください。そして目を閉じてください。これから先生方のお顔にシールを貼ります。シールを貼った後、3分の時間をとるので、誰とも話をしないでグループに分かれてください。

「気がきき、考え、実行する」をしていきます。その思考へ繋がるようにする仕組みがすごいと感じています。また、JRC



にはトレセンという赤十字とJRCの考え方について学べる機会があります。富山県のトレセンは福島県と違い、小・中・高が同じ日程と場所で開催しているのです。様々な面で子ども達が大人になれる最先端のものだと感じています。

国際理解というものは、「国際」という言葉を聞いただけで遠いもののように思いますが、考え方を変えると、自分以外の人間はすべて異文化ということになるのではないのでしょうか。同じ日本人でも、出身や育ちが違えば、味噌汁の具や味付けだけで全く違います。そういう視点に立ち、自分以外の人の興味を持ってコミュニケーションをとっていくことが国際理解に繋がっていくのではないかと思います。

私は2011年の東日本大震災で教える子を亡くし、2015年のネパール大震災で家族を4人亡くしました。人生の中でこんなに災害に見舞われることがあるのだろうか、私は以前と同じようにJRC活動をしていてよいのだろうかと考えていたところ、JRC防災教材「まもろ」の編集委員会にお声かけいただき、赤十字とともに2年間作成に携わらせていただきました。

この教材は、日赤の組織力と学校の教育力を合わせ、自分の命を守り、いつか困っている人に手を差し伸べられる子が育つように、という思いで作られました。

この教材を作製した2年間で辿り着いた防災教育の答えは、「コミュニケーション能力を身につけること」です。教材の81ページから、コミュニケーション能力を身につけるためにNASA等で実際に行われている、ストレスのかかる閉ざされた空間でどう問題解決をするかという手法をアレ

ンジして作ったプログラム(BCW)が多数入っています。ぜひ活用ください。

私はこの教材を作成する際、「怖がらせるまではないかなくても、生徒が真剣に取り組める教材にしたい」という意見を出しました。すると、編集委員会の一員の松本光司先生という、当時福島県いわき市の海の近くの小学校で校長先生をされており、東日本大震災の津波で大変なご経験をされた先生にこう言われました。

「防災教育というものは子ども達の命を守ることで、子ども達の命を守ることは、未来をつくること。未来をつくることは、子ども達にとって楽しいことではないといけない。この教材には、子ども達を怖がらせるものや、防災を学ぶことが嫌だと思わせるようなものがあっては絶対にいけない」とこの言葉は、私が子ども達に防災教育を伝えるときに、絶対忘れないようにしている言葉です。

防災教育については、みんな同じ大切な命です。赤十字の挑戦や行動に学校教育も乗っかっていくことで、生きる力にあふれた子ども達を育てていくのではないかと思います。

私はJRC活動をする際、学校行事に乗っかる「ついで」というすき間時間を使って活動していきます。その活動の中で「国際理解と防災教育」の取り組みとして、英語の先生とALTの先生にご協力をいただき、英語で非常持ち出し袋を作るという授業をしました。この授業で、在留外国人の非常持ち出し袋には、必ずパスポートを入れなくてはならないという日本との違いに生徒が気づいてくれました。この授業の様子は「まもろ」の赤十字公式動画としてYoutubeにあります。この授業の直前にALTの家族の1人が山の事故で亡くなり、授業の中止を提案しましたが、

細かい指示はしませんでした。この体験では、言葉が通じない中で私たちは誰とコミュニケーションをとり、仲間になればいいのか、という国際社会での不安感を体験できます。グループに入れた方が不安や寂しさは、グループを作れた方は安心感があったかと思えます。また、言葉が話せなくてもジェスチャーで気持ちが伝わることも体験していただけたかと思えます。

それでは2つ目の体験です。お一人の方はどこのグループに入ってもらい、そのグループを家族とします。家族の1人が腹痛で苦しんでいるので、薬を買いに行く人を家族の中から一人選んでください。ちなみに家族が住んでいる村は山奥で、薬屋へ行くには歩いて3時間かかります。

薬屋に着きましたが、店員は薬に詳しくありません。店員に「腹痛に効く薬をください」と言ったところ、「腹痛に効く薬は3つです」と言われました。薬を買いに来た方は、3つの薬袋に書かれている絵や文字を頼りに、どれか1つを選んでもらいます。この体験では、見たこともない、読めない文字があるときに、どうやって家族を守ればいいのかを考えることができたかと思えます。

赤十字は世界で活動しており、人間愛と人道で成り立っている組織です。JRCは学校教育の中でその考え方を学ぶことができ、学んだ生徒は自分からJRCの目標である「気がきき、考え、実行する」をしていきます。

「命は守らなければならないもの。この認識は世界共通だからやらせてください」という先生の強い思いで実現した授業です。ぜひご覧ください。最後に、2015年4月のネパール大地震が発生して4ヶ月後に私たち夫婦はようやくネパールに行けました。家族達と一緒に折り紙をしていて、私が家族のリクエストに応えられず落ち込んでいたとき、7歳の姪っ子が私の肩を叩いて、「Try Try But don't cry」と声をかけてくれました。この言葉はその後、ネパールを支援するために夫と始めた活動の中でとても大事にしている言葉です。この言葉のように、私たちにできることを笑顔でできれば良いなと思っています。

「命は守らなければならないもの。この認識は世界共通だからやらせてください」という先生の強い思いで実現した授業です。ぜひご覧ください。最後に、2015年4月のネパール大地震が発生して4ヶ月後に私たち夫婦はようやくネパールに行けました。家族達と一緒に折り紙をしていて、私が家族のリクエストに応えられず落ち込んでいたとき、7歳の姪っ子が私の肩を叩いて、「Try Try But don't cry」と声をかけてくれました。この言葉はその後、ネパールを支援するために夫と始めた活動の中でとても大事にしている言葉です。この言葉のように、私たちにできることを笑顔でできれば良いなと思っています。

問1 答え：○。2050年には世界の人口が約98億人になるというデータがある。

問2 答え：×。日本の人口は減少している。

問3 答え：×。日本の人口は減少している。

問4 答え：○。約120億人分の食料が生産されている。

問5 答え：×。発展途上国に住む人は世界の5分の4。

問6 答え：×。日本は、世界で5分の1の先進国。

問7 答え：○。日本で1日に捨てられる食料は約3、000万人分。1日に1人あたりご飯1膳分が捨てられているという計算となる。

問8 答え：何らかの理由で輸入が止まってしまった場合の日本の食料。生命維持のためのカロリーと国産の食料重視で作られたメニューで、農林水産省の職員が実際に試した結果、問題ないということで農林水産省のホームページに掲載されている。

【出典：国連・ユニセフ・WFP・農水省・厚労省等】

〈第2部・活動発表〉
「進んで学び、新たな挑戦をし、
思いやりのある生徒の育成」

富山市立水橋中学校 教諭 千坂 誠 氏

当校は、平成31・令和元年度富山県青少年赤十字活動推進校として、「WE LOVE 水橋」以来に誇れる水橋へ」というスローガンのもと、自分の学校がもっと好きになれるよう、地域の祭りでの美化活動やあいさつ運動、全校レクリエーション等の活動を行いました。

生徒会と専門委員会が共通の目標を持ち、協力して活動を進められた一方で、活動が単発的になりやすいところもありました。今後の課題は、活動後に生徒議会と専門委員会で次に繋がる取り組みをすることだと感じています。

「令和元年度 青少年赤十字海外支援事業
バヌアツ スタディー・ツアー派遣報告」
高岡向陵高等学校 養護教諭 浦上 真由美 氏

令和元年8月に、JRCの活動の一環ということでバヌアツへ派遣されました。この事業には全国から選抜された高校生8名と私を含めた指導者2名、日赤本社職員、添乗員の合計13名が派遣されました。現地では防災に関わる施設や学校を訪れ、防災学習を学んだり、日本の教材を使った学習をしたりしました。

帰国した高校生は、自分の住んでいる都道府県で報告会を開き、1円玉募金の推進や、広報活動を行うなど、自分でできることを実行に移しています。このような機会をいただき、ありがとうございました。

日本赤十字社富山県支部
130周年記念大会

令和元年11月6日(水)に富山県民会館にて「日本赤十字社富山県支部130周年記念大会」が開催されました。本記念大会には、県内各地の支援者や赤十字奉仕団ら約1000名が出席し、赤十字事業に功績のあった個人・法人・団体に対して表彰状や感謝状の贈呈が行われました。

県内の青少年赤十字加盟校計248校からは、5年〜70年以上の長きに渡り青少年赤十字活動を継続して行っている213校が表彰され、受章校を代表して、富山県立高岡西高等学校 校長 蒲田 雅樹氏が石井隆一日本赤十字社富山県支部長より表彰状の贈呈を受けました。

また、5年〜20年以上、トレセンでのメンバーの指導や青少年赤十字の普及に尽力された指導者29名も表彰されました。受章者を代表して、高岡市立野村小学校 教諭 森 敬氏が感謝状の贈呈を受けました。



表彰を受ける富山県立高岡西高等学校校長 蒲田 雅樹氏(写真上)と、高岡市立野村小学校 教諭 森 敬氏(写真下)

指導者対象青少年赤十字
講習会・研究会に参加して
西部教育事務所
主任指導主事 倉谷 尚宏



〈令和2年1月9日に、「令和元年度青少年赤十字研究会」が日赤本社にて開催されました。〉

1月9日、日本赤十字社本社において、「青少年赤十字研究会」が開催されました。文部科学省初等中等教育局 青木視学官による講演「学校教育と青少年赤十字」〈新学習指導要領を踏まえて〉が心に残っています。

青少年赤十字は、誰の心の中にも本来あるやさしさや思いやりの心を引き出すとともに、自主的で、自律した生活態度を養うことを目的に活動しています。また、「健康・安全」「奉仕」「国際理解・親善」という実践目標と、「気づき・考え・実行する」という態度目標を設け、その具現化を図っています。

一方、新学習指導要領には、「これからの社会が、どんなに変化して予測困難になっても、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、判断して行動し、それぞれに思い描く幸せを実現してほしい」として、明るい未来を共に創っていききたい。という願いが込められ、子供たちの「生きる力」の育成を目指しています。

このように、青少年赤十字の理念は、新学習指導要領と深く関連しています。日々の教育活動を青少年赤十字のフィルターを通して意味付けていくことが大切だと感じました。

青少年赤十字防災教育プログラム
まもるいのち ひろめるぼうさい

日本赤十字社は、児童・生徒が自然災害の学習と対策について主体的に取り組むことを目的に、小・中・高校生向けの教材「まもるいのち ひろめるぼうさい」を作成し、平成26年度〜令和元年度までに、青少年赤十字加盟校・未加盟校に1〜2冊ずつ送付しております。

本教材は小・中・高 校用の指導案で、付属CDには、ワークシート・パワーポイントのデータが入っており、付属DVDには、映像・写真資料が収録されています。また、災害時に必要となるコミュニケーション能力や想像力を養うグループワーク等、充実した内容の1冊となっています。日赤県支部でもご用意しております。送付希望がありましたら、お気軽に日赤県支部までお問い合わせください。

本教材および本教材を活用した全国の学校での授業の様子は、左のQRコードからご覧いただけます。



グループワークの様子



青少年赤十字の防災教育についてのホームページに移動します。

赤十字 防災講演の活用

日赤県支部では、防災や減災について少しでも考える機会をもつていただけるよう、講演を行っております。

・防災講演：被災地の様子や災害救護活動を知る
東日本大震災や平成28年熊本地震災害、平成30年西日本豪雨災害、令和元年台風第19号災害で実際に被災地へ派遣され、災害救護活動を行った職員が、被災地や避難所での活動内容や、様子についてお話しします。

・防災講演：災害時に活用できる技を知る
災害時やいざという時に役に立つ「毛布ガウンの作り方」や「ゴミ袋カッパ」、「新聞スリッパ」、「風呂敷リュック」等の作り方を、ワークショップ形式でお話しします。

詳しくは、日赤県支部までお問い合わせください。



新聞スリッパ作成の様子



作成した風呂敷リュックを担ぐ生徒

青少年赤十字と地域奉仕団の連携活動

青少年赤十字加盟校と地域の赤十字奉仕団が連携して、さまざまな活動を行っています。今回はその活動の一部をご紹介します。

- ①ひとり暮らし高齢者訪問：地域でひとり暮らしをしている高齢者のお宅を訪問します。
生徒の感想(一部抜粋)「挨拶をしたり手紙を読んであげたりしたら、だんだん表情が明るくなっていったので私も嬉しくなりました。少しの間だったけれど、楽しくふれあえたのでよかったです。これからも「優しさ」を忘れずに人に接していきたいです。」
- ②炊き出し体験：災害時に実際に行われる炊き出しを体験し、試食します。
- ③点字講座：点字の歴史や読み方について学習し、実際の点字器を使って文章を打つ体験を行います。
- ④募金活動：毎年12月1日〜25日に行われる「NHK海外たすけあい」の街頭募金の呼びかけを行います。

詳しくは、日赤県支部までお問い合わせください。

詳しくは、日赤県支部までお問い合わせください。



ひとり暮らし高齢者訪問の様子



〈富山市立熊野小学校〉
 本校では、「社会の中でよりよく生きていけるようにする」ことを、目指す子ども像としています。そのためには、子どもたちには「自ら考え、自ら判断し、自ら決定し、自ら行動する資質」すなわち「自律」する力を身に付けていくことが大切だと考えています。
 学校では、児童会や委員会が中心となって、障がいをもった人たちが災害に遭った人たちへ何ができるか考え、募金活動に協力したり、毎日、自分で場所や活動を考えて勤労生産活動に取り組ん

青少年赤十字活動推進校のご紹介

◆活動推進校とは

学校教育における青少年赤十字の活動推進を行う、加盟校における資質向上、未加盟校への啓発のため、2カ年に渡って青少年赤十字を研究している学校です。
 令和元・2年度の指定は、富山市立熊野小学校、氷見市立十三中学校の2校です。

〈氷見市立十三中学校〉
 本校では、青少年赤十字活動推進校の指定を受け、「社会の一員として、主体的・協働的に取り組む教育活動の推進」を活動主題とし、地域に根ざした活動に取り組んでいます。本校における、ふるさと十三を愛し、誇りに思う心を育む活動について紹介します。
 まず、生徒会では、小中連携活動スローガンを掲げ、そののぼり旗を手に、「小中連携あいさつ運動」を行っています。
 また、学校近くの「きずなの森」で夏に開催される「竹ドームコンサート」に友情出演しています。本年度は、台風の影響で体育館での開催となりましたが、地域の豊かな自然を活かした、学校・家庭・地域が一体となって取り組む活動とな

けたいと思いました。
 感想
 ぼくは、トレセンに参加して、こんなにも楽しくて、友達が増えるとは思いませんでした。何事も挑戦することが大切なんだなと思いました。
 このトレセンを通して学校では、地域のリーダーとして、また委員会の副委員長としてリーダーシップを取り、みんなをまとめて、みんなのためになることをしていきたいと思いました。
 〈中学2年生 F・Dさん〉



青少年赤十字活動推進校 指定のお知らせ

富山県支部では、毎年度毎に活動推進校を指定し、青少年赤十字活動の普及・啓発を目指しています。

1. 指定対象 県内の青少年赤十字加盟校
2. 活動報告等 指定終了年度末に報告書提出 活動研究会での活動報告 等
3. その他 詳しくは富山県支部まで。



つています。
 青少年赤十字について学ぶ講演会も開催しました。人道や公平・中立、奉仕の心を大切に、これからも生徒自らが「気づき・考え・実行する」活動を推進していきます。

リーダーシップ・ トレーニング・センター

県内の青少年赤十字加盟校より小・中・高等学校別に参加者を募り、青少年赤十字のリーダー養成を目的として、毎年夏休みに開催しています。
 今年度は、小学校が7月31日(水)～8月1日(木)、中学校・高等学校が7月31日(水)～8月2日(金)の日程で、富山県砺波青少年自然の家にて開催し、県内の小・中・高校生89名が参加しました。救急法やフィールドワーク、点字・車椅子・手話の体験などに取り組み、新しく出会った仲間との体験を通して、リーダーシップを高めました。

リーダーシップ・ トレーニング・センター ワークショップ集より

〈小学6年生 A・Kさん〉

みんながんばったポスター
 ぼくたちBホームは、「世界性」のポスターを作りました。紙を細かく切って、にじを作るのがとても大変でした。一人一役を絶対にしようとして、グループの友達と計画を立てました。アイデアを出し合い、きれいなにじの橋ができて、うれしかったです。
 時計を見て、5分前行動を！
 トレセンでは、なるべく先生たちにたよらないようにする、というルールがあります。はじめは、しおりを見て、時計どおりに行動するということがむずかしかったです。でもだんだん時間をきにするようにして早めに行動するということが、かたんたんになりました。学校でも5分前行動を心が

私はこの3日間のトレセンで、たくさんのごとを学び、リーダーシップをとることの大変さとやりがいを感じました。その中でも、とくに大切だと思ったことが3つあります。1つ目は「気づき、考え、実行する」ということです。私のもと、「気づき」と「考え」までは、することができましたが、「実行する」ということがなかなかできませんでした。ですが、「V・S計画」のときに、「5W1H」を意識して目標を立てることで、いつ、どこで、何をすればよいか具体的に分かり、自分の目標に向かって、実行できるようになりました。2つ目は、スケジュールを把握して、常に先のことを考えることです。これは、学校の宿泊学習とトレセンの大きな違いだと思います。だから、とても大変でした。ですが、リーダーはみんなに指示する役なので、常に先のことを考えなければならぬし、将来の自分にとっても大切なことなので、良い経験になったと思います。3つ目は、積極的に行動すること

令和2年度 トレセン開催のお知らせ

令和2年度は小学校が8月5日(水)から8月6日(木)まで、中学校・高等学校が8月5日(水)から8月7日(金)までの日程で、富山県砺波青少年自然の家を会場に開催する予定です。開催案内は、5月中旬に加盟校にお知らせします。たくさんの学校から児童・生徒の参加並びに先生方のご協力をお待ちしています。

す。このトレセンに来て、初めに感じたことは、周りの人たちが予想以上に積極性があるということです。だから、とても刺激を受けて私も1日目より2日目、2日目よりも3日目と徐々に積極的に行動していききました。そして、積極的に行動していくことで、友達との仲も深まり、いろいろな活動を思いきり楽しむことができました。
 この3日間ではリーダーとして、また人として大切なことをたくさん学ぶことができ、大きく成長できたと思います。ですが、「もう少し積極的な自分」「身近な問題に気づける自分」「リーダーにふさわしい自分」など、変わりたい自分がたくさんあります。だからこそ、このトレセンで学んだことは習慣にしていきたい、さまざまな場面で活用していきたいです。実のある3日間で、自分自身を振り返り、成長できたので本当によかったと思います。
 これからも、何事にも怖がらずに挑戦していき、いろいろなことから大切なことを吸収して、自分の成長に生かしていきたいです。

